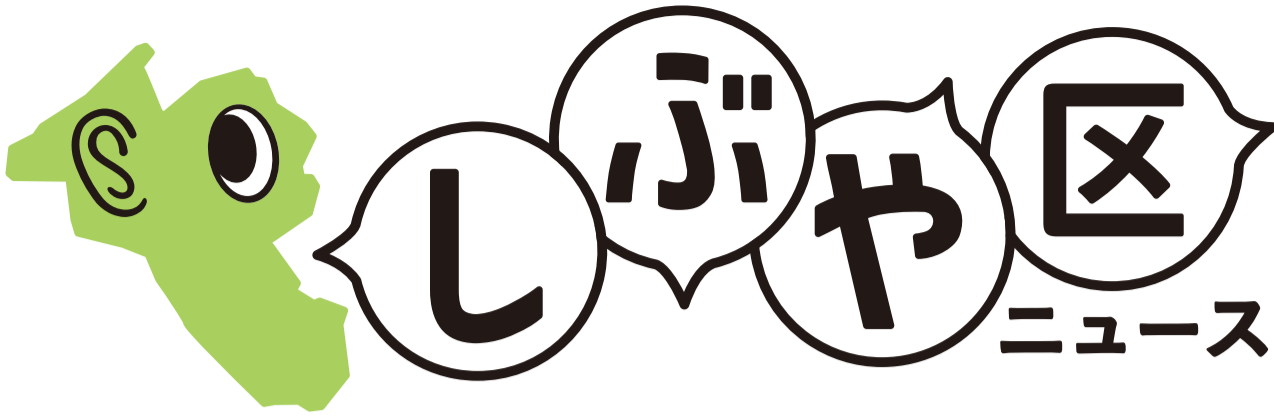


顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 1月15日

No.1428



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



渋谷区名誉区民 松崎キミ代さん

卓球に魅せられ、求道の先に掴んだ栄光。 金メダリストを渋谷区名誉区民に迎えて。

2 | 世界での経験を生かし、
3 | 渋谷で育む卓球の未来。

4 | 渋谷ハチコウ大学の
5 | 学生を募集します ほか

6 | 母子家庭・父子家庭の自立を
7 | 支援します ほか

8 | 暮らしの情報
11 |

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

世界での経験を生かし、渋谷で育む卓球の未来。

渋谷のラジオで出張インタビュー 渋谷区名誉区民に顕彰された元卓球選手・松崎キミ代さんに、選手時代のエピソードや卓球指導者としての活動などを伺いました。



幅広い世代に卓球を楽しんでいただきたいです。

渋谷区名誉区民 松崎キミ代さん

卓球に魅せられ、練習に打ち込んだ青春時代。

——松崎さんはどのような子ども時代を過ごされたのでしょうか？

松崎：昭和13年に香川県三豊郡上高瀬村(現：三豊市高瀬町)で生まれ、小売酒屋を営む両親のもと、6人姉妹の長女として育ちました。小学生の頃から家の手伝いをして、背中にはいつも小さい妹をおぶっていましたね。活発な性格だったので、妹をおぶったまま、缶蹴りやかくれんぼをやっていましたよ(笑)。

——卓球を始めたきっかけを教えてください。

松崎：小学校5年生の頃、放課後の講堂で2人の青年が卓球をしているのを見かけたんです。そのリズムカルな音、力強いフォーム、球が描く放物線の美しさに一瞬で魅せられ、卓球の虜になってしまいました。それで、中学生になるとすぐに卓球部に入ったのですが、父は猛反対。練習で帰りが遅くなると、酒屋の手伝いができなくなるからです。長女である私が家業を継ぐのは当たり前だと父に思われていたので、2年生になったら部活を諦めて辞めようと考えていたんですが、先生が私には卓球の才能があるからと、反対する両親を説得してくれました。先生は私に卓球を続けさせてくれた恩人です。それから毎日夢中で練習して、中学校3年生の時に県大会で優勝。とてもうれしかったことを覚えています。高校時代も引き続き卓球に専念し、インターハイで2位という成績を残すことができました。

——素晴らしい実績ですね。大学でも卓球を続けたのですか？

松崎：はい。進学の時も父の大反対に遭いましたが、根気強く説得して卓球の強豪校である専修大学に進学しました。2年生の時の全日本選手権で世界チャンピオンの江口富士枝選手に勝って優勝できた時は、夢が叶ったような気持ちでしたし、父も泣いて喜んでくれました。酒屋の跡取り娘だった私に、卓球の道を選ばせてくれた両親への感謝も、優勝という形で伝えられたと思います。

強い覚悟とスポーツマン精神で挑んだ世界。

——平成9年には、世界卓球選手権大会において通算7個の金メダルを獲得した功績がたたえられ、世界卓球殿堂入りも果たされました。輝かしい戦歴の背景には、どのような努力や思いがあったのでしょうか？

松崎：選手時代は、わずかな時間を見つけては練習に励みました。選手時代の後半に悩まされたのは、爪割れと発熱です。私は親指を深く入れてラケットを握っていたため、指先に負担がかかり、爪が根元から割れてしまうんです。何度も繰り返し割れるので、包帯を指先に巻きつけてプレーしていました。発熱も厄介でしたね。当時は病院でも原因がよく分からず、解熱剤を飲んで耐えるしかありませんでした。試合の数時間前に悪寒でガタガタと震える私に、チームメイトが毛布や上着、タオルをかき集めてかけてくれたこともありました。でも、試合が始まると痛みや苦しさに屈することなく集中できました。卓球が好きで好きでたまらないという気持ちと、強くならなければ故郷には帰れないという覚悟が、学生時代の私を支えていたように思います。「後悔だけはしたくない。どんなにリードされていても最後まで決して諦めないで戦おう」という思いで、いつも試合に臨んでいましたね。

——選手時代を振り返って、特に印象に残っている試合はありますか？

松崎：どの試合も印象深いですが、一つ挙げるとすれば、昭和36年に中国の北京で開催された世界卓球選手権大会でしょうか。当時は日本と中国の国交が正常化していなかったこともあり、日本人選手は完全にアウェーな状況でした。ですが女子シングルス準決勝、ハンガリーの選手との試合で私の不運な失点が重なり、接戦になったとき、中国の大観衆の中から私を応援する声がかけてくるようになったんです。結果的には負けてしまったのですが、試合後に私が相手選手に駆け寄って握手を求めると観客席から温かい拍手が湧き起こりました。さらに中国の周恩来首相主催の送別会で、首相が声を掛けてくださいました。「松崎さん、あなたは中国人民に深い印象を植え付けました。負けても1番です。勝った時にもおごらず、負けてもくじけな。この風格を中国のスポーツ選手は学ばなければなりません」と。世界の多くの政治家や外交官から尊敬を集めている首相からのこの言葉は何よりもうれしかったです。周恩来首相はその後も慈父のような優しさで接してくださいました。スポーツは勝ち負けだけでなく、マナーや精神も大切なのだと改めて感じましたね。

人間と人間が真摯に向き合うからこそ、国を越えた感動や友好が生まれるのだと思います。

卓球の普及拡大に尽力。いくつになっても人生を楽しむ。

——現役引退後は、昭和51年から渋谷区に住まわれているそうですね。卓球専門店「テーブルテニスマツザキ」を恵比寿で開かれた理由や、街の住み心地について教えてください。

松崎：私が引っ越してきた当時の恵比寿は、今ほど街がひらけておらず、駅も小さかったんです。店を開く時に、ここならお客さんも迷わずに来られそうだし、恵比寿という地名も縁起がいいと思ったんです。もう44年住んでいますが、住み心地はすごくいいですよ。どこに行くにも何をすることも便利ですし、長年親しくさせていただいているご近所さんもいて安心できます。時代とともにビルも人も増えて、街はどんどん変わっていますが、やっぱり恵比寿はいいですね。恵比寿ガーデンプレイスや代官山をウィンドーショッピングをしながら散歩するのも楽しいです。

——松崎さんは日本卓球協会の顧問や関東学生卓球連盟会長を務め、区内の卓球教室でも指導されてきました。

松崎：65歳までは、勤労福祉会館などで指導を行っていました。多い時は週5日指導していましたね。初心者の人には、まず楽しくラリーを続けられるように指導し、若い選手に対しては技術だけでなく礼儀やスポーツマンシップの大切さも伝えてきたつもりです。今は定期的な指導は行なっていませんが、各地の試合を観に行ったり、大学の卓球部のOB会に参加したり、卓球とのつながりは続いています。

——区民スポーツ振興の功労者として、平成23年度には渋谷区区政功労者に、さらに今年度は渋谷区名誉区民に顕彰されました。名誉区民となられた今のお気持ちを教えてください。

松崎：最初に聞いたときは、「本当に私でいいのかしら？」と驚きましたが、とても光栄です。故郷のご先祖様も喜んでくれていると思います。近年は卓球人気も高まり、日本の選手もレベルアップしているので、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が楽しみです。これを契機に、日本の卓球界がさらに盛り上がることを期待しています。試合は間近で観ると迫力があって面白いので、会場に足を運ぶ人も増えてきています。将来的には、渋谷から世界で活躍する卓球選手が出てきてくれたらと思っていますし、そのために私にできることがあれば、お役に立ちたいです。

——松崎さんは81歳となられる今も精力的に活動されています。その元気の秘訣はどこにあるのでしょうか？

松崎：以前、人生の大先輩が元気で長生きする秘訣は“さんかく”だと教えてくれました。字をかく、汗をかく、恥をかくという、“3つのかく”(=さんかく)です。年を重ねても、頭と体と心を動かし続けることが大切ではないでしょうか。私は、恥なんかしょつ

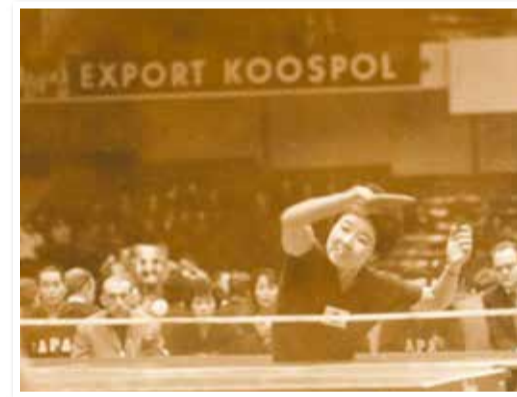
ちゅうかいていますよ(笑)。間違ったり失敗したりして落ち込むこともありますけど、いくつになっても好奇心を持ち、いろいろな場所へ出掛けたり、人と話したりして、人生を楽しみたいなと思います。

——最後に、区民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

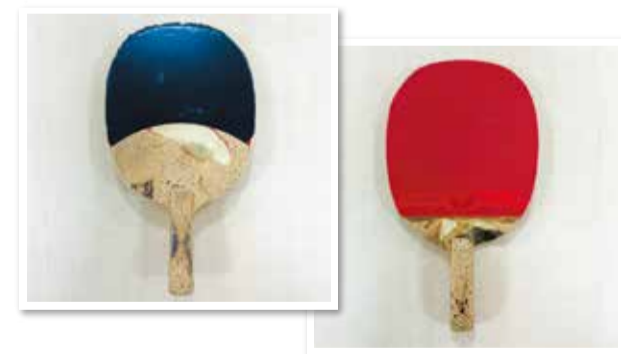
松崎：卓球は老若男女が楽しめるスポーツです。年齢別では90代の部もあって、試合も行われているんですよ。まだ卓球の経験がない人も、一度やってみたらきっとその面白さが分かるでしょう。球をラケットで打ち返す感触やラリーが続く楽しさは一度味わうとやみつきになるものです。ぜひ、幅広い世代の人たちに卓球を楽しんでいただきたいと思います。

松崎キミ代さんプロフィール - PROFILE -

昭和13年香川県生まれ。元卓球選手。過去に出場した世界卓球選手権大会においてシングルス、ダブルス、混合ダブルスおよび団体で通算7個の金メダルを獲得し、世界卓球殿堂入りを果たす(平成9年)。昭和38年に現役を引退し、昭和51年より渋谷区恵比寿在住。長年、区内の卓球教室などで指導を行い、現在は公益財団法人日本卓球協会の顧問として卓球の普及拡大に務めている。平成23年渋谷区区政功労者表彰受章。令和2年渋谷区名誉区民顕彰。



▲▶第27回世界卓球選手権大会(プラハ)ではシングルス、ダブルス、団体で優勝。三冠王となる。



▲現在使用しているラケット。強く握るため指が当たる部分が割れている。

松崎キミ代さんのインタビューは1月21・28日に「渋谷の星」で放送します。

問広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 📠5458-4920